



地域がはぐくんだ、ふれあいのつながりを訪ねて

愛ランドまーい

人と人のつながりがより身近な地域には、途切れることのない人の輪があり、脈々と継がれる絆があります。共同体意識に根ざした独特の活動を展開する各字を訪ねました。

カマドから始まった

生活改善運動

昭和三十年頃から、沖縄の農・漁村地域では、農業改良普及所などの指導のもと、生活改善運動が行なわれました。

生活環境の問題を解決し、家庭の健康づくりを推進するこの運動を本部町字新里では、昭和三十三年にスタートさせました。婦人会の二十〜三十人で発足した「新里グループ」がまず手がけたのは、カマドの改良でした。赤土をこね、鍋のふちに合わせて、大中小のカマドをかたどった地ガマから、レンガを積み上げたカマドへ改良を重ねました。グループでの生活改善運動は、三層式の改良便所、手洗い所の普及、日除けのふちを取り入れた農作業頭巾や作業着のデザイン、さらに冠婚葬祭の簡素化と幅広く、いわば近代的な暮らしをめざした共同開発でした。



若い世代へ昔ながらのナマコ料理法を伝授

また当時は、今ほど物が豊かではなく、ナマコやカボチャなど身近な食材を知恵と工夫をこらして調理しました。特に、年二回グループで取り組んだ味噌造り。米を蒸し、麹菌を加えて発酵を待ち、さらに自家製の大豆をあわせてこしらえた手づくり味噌をみんなで分けあつたものでした。平成九年、生活改善グループは「農山漁村生活研究会」へ改称されました。新里グループの若い会員たちは時代に



カマドづくりの一步から 農・漁村婦人たちの学びと伝承、48年。

本部町字新里の生活改善グループ活動

生活改善運動を支えた新里の婦人会と生活改善グループ員たち



新里の朝市。6年目を迎えお客さん相手も上手になりました。



朝市3周年を記念したイモたちが祖父、両親たちの農業を体験する場です。

新たな地域起こし

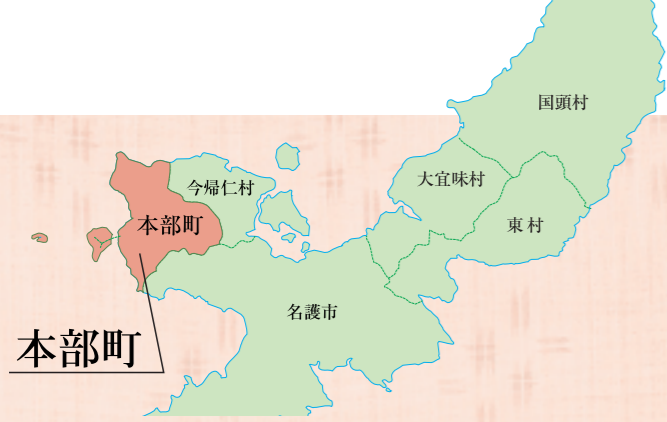
「新里の朝市」

本部半島の北西の端、県道百十四号線が集落を走る字新里は、海と緑豊かな景観が美しい集落です。昭和五十年、隣の備瀬集落で海洋博覧会が開催され、さらに沖縄美ら海水族館も誕生し、新里へ多くの人が訪れるようになりました。

平成十二年、地元の老人会長が世話役となり「新里の朝市」がスタートしました。毎月第一日曜日の朝七時、採れたてのグリーンアスパラやカラシナ、モズク、イカなど、半農半漁の新里の特産物が並び、早朝から大勢の人でにぎわいます。新里では、地元の伝承料理の加工販売、子供たちへの農業体験、人々のふれあいなど、朝市を通してさまざまな継承が行われています。

太陽と海と緑、観光文化のまち、本部町

日本一早い桜の名所、亜熱帯の特産果実、伝統のカツオ漁、そして海洋博公園。本部町は、農業や漁業が盛んで、年間約三百万人の観光客が訪れており、人と自然が心地よく共生するまちづくりで注目を浴びています。



沖縄美ら海水族館

世界最大級の水族館。巨大水槽で悠々と泳ぐマンタやジンベエザメなど、圧倒的な海の世界は人々を魅了します。



アセロラ
レモンの38倍のビタミンCを含む注目の果実。飲料から化粧品まで製品の研究開発が盛んに行われています。



カツオ

伝統的にカツオ漁が盛んで、町のシンボルとなる魚です。季節になるとカツオの水揚げで港も市場も賑わいます。



円錐カルスト

本部半島には日本唯一の円錐カルストがあります。その特有な地形景観は見る人の目を楽ませます。

八重岳桜まつり

例年1月の中旬から2月の中旬にかけて日本一早い桜まつりが開催されます。八重岳が、濃いピンクの寒緋桜に彩られ、訪れる人の目を楽ませてください。



本部町の概要

本部町は、本部半島の先端に位置しています。西の洋上には伊江島をはじめ、北方には伊是名島、伊平屋島を望むことができます。このような位置にあることから本部港は北部港湾の中心とも言えます。また、陸上では東南に名護市、東北に今帰仁村と隣接しており、名護市を中心とした北部の人口集中地域となっています。